

# 意味理解への態度が地域アイデンティティの 認識と形成に与える影響に関する研究 —地域と景観を対象として—

近石 さゆり<sup>1</sup>・泊 尚志<sup>2</sup>

<sup>1</sup>正会員 修士（工学） 株式会社上條・福島都市設計事務所  
(162-0065 東京都新宿区住吉町 10-5, E-mail: chikaishi@kfa.co.jp)

<sup>2</sup>正会員 博士（工学） 東北工業大学工学部都市マネジメント学科  
(982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1, E-mail: tomari00@tohtech.ac.jp)

本研究では、人と地域との心理的な結びつきの観点から人が景観や地域に対する向き合い方としての態度に着目し、人の景観や地域に対する意味理解への態度が地域アイデンティティの認識と形成に与える影響の把握を試みた。文献調査を通じて景観や地域に対する意味態度の重要性について論じた上で、アンケート調査の実施を通じて、景観や地域に対する態度の差異が、地域アイデンティティの主體的な認識と形成に影響を与える可能性を把握した。

**キーワード:** 意味理解への態度, 地域アイデンティティ, 自己の意識における地域

## 1. はじめに

わが国では、地域の持続や地域活性化の観点から、地域愛着<sup>1</sup>や誇り<sup>2</sup>、あるいはふるさと意識<sup>3</sup>と呼ばれるような、人と地域との心理的な結びつきの再形成が求められている。また、人と地域との心理的な結びつきの再形成において、「地域の固有性」「地域性」の形成と、人々からの認識が重要であるとされている。

地域性に関する主な議論は、「国土のランドデザイン」<sup>4</sup>で述べられるような地方創生や地域活性化の場面や、他方では国土交通省「美しい国づくり政策大綱」<sup>5</sup>のように景観政策の場面でなされている。両者の問題意識は異なるものの、共通して地域固有性や地域「らしさ」の認識と形成が重要であるとしており、それに向けたブランディングや地域性のある景観づくりが行われている。このように、理論的にも実践的にも地域性が重要とされている一方で、地域性の認識の背景に注意が必要である。たとえば、「TV でよく PR されているからこの地域らしい場所だと思うが、大して好きではない」などのように、地域性を受動的にであったり一面的観点から認識してい

たりする場合には、地域性の認識を通じた人と地域との心理的な結びつきの再形成や、地域性そのものの形成に結びつかない可能性がある。

そこで本研究では、人と地域との心理的な結びつきを取り巻く課題として地域性の認識のあり方に着目し、新たな視点として人が景観や地域に対する向き合い方としての態度を挙げ、人の景観や地域に対する態度が人と地域との心理的な結びつきや地域性の認識と形成に与える影響や、それらの関係性を明らかにすることを目的とする。

また、「人と地域との心理的な結びつき」「地域性」の両者を内包する概念として「地域アイデンティティ」が存在し、以降では「地域アイデンティティ」と表現する。地域アイデンティティの概念については2. で論じる。

## 2. 既往研究の整理と本研究の着眼点

### (1) 既往研究の整理

#### a) 地域アイデンティティ概念の定義

地域アイデンティティの概念は多義的であるが、大別すると「地域が持つアイデンティティ」と「地域と関連する自己アイデンティティ」の2通りの意味が存在する<sup>6)</sup>。

「地域が持つアイデンティティ」は、一般的に地域の固有性や地域の「らしさ」と表現されるものであり、ランドマークといった地域の特徴的なものを指す場合もあれば、地域の将来像や「まちの誇り」として特定の集団内で認識や共有がなされる物事を指す場合もある。

「地域と関連する自己アイデンティティ」は、主に地域の住民がまちに対して抱く帰属意識を指し、地域愛着を含む場合もある<sup>6)</sup>。また、関連する概念として、地域に対する誇りや、人が地域に対して抱く感情のことを指す場所感覚<sup>7)</sup>がある。これらに共通するのは、個人の内部で形成されるものと捉えられていることである。

本研究では「地域が持つアイデンティティ」を、地域内に存在し、個人が「地域らしい」と感じる物事とし、「地域と関連する自己アイデンティティ」を、地域と自身との関連性と、地域に対する肯定感の深さとする。

#### b) 「地域が持つアイデンティティ」としての景観と「地域と関連する自己アイデンティティ」の関係性

本研究では、「地域が持つアイデンティティ」の具体的な要素として景観に着目する。

まず1.でも述べたように「地域が持つアイデンティティ」について景観政策の場面で多く議論されているからである。

また、景観は人の営みの現れであり、営みの維持には人との心理的な結びつきが重要であると考えられるためである。

更に、重岡ら<sup>8)</sup>は地域景観が文化的景観として評価されたことで、「地域と関連する自己アイデンティティ」が再醸成されるとする。同様に、景観を含む地域資産との関わりの深さが、「地域と関連する自己アイデンティティ」を形成するという<sup>9)</sup>。また、地域愛着においても、物理的環境と社会的環境に対する評価が高いと、地域愛着が強いことが指摘されている<sup>10)</sup>。

このことから、地域景観は「地域と関連する自己アイデンティティ」を形成する一要因と考えられる。

#### c) 「地域が持つアイデンティティ」の認識と「地域と関連する自己アイデンティティ」の形成における態度の重要性

2. (1)b)より、景観が「地域と関連する自己アイデンティティ」を形成する一要因と考えられるとしたが、景

観がある特定の集団内で意味づけされていることも重要であると指摘されている<sup>11)</sup>。ここで、本研究が問題意識とする、「地域が持つアイデンティティ」の認識の背景の差異の影響について、レルフ<sup>7)</sup>が以下のような指摘をしている。

まず、場所に対して表層的であったり一面的な観点で接しようとしたりする偽物の態度は、「最も浅い意味で場所やそのアイデンティティを識別する能力」とし、個人のアイデンティティの基礎としての地域との心理的な結びつきに至るまで幅広い概念とされる場所感覚を本質的に欠くと述べている。

また、このような場所感覚について、場所に対する象徴的な意義への気づきと場所のアイデンティティへの理解が必要不可欠と述べている。

さらに、「地域が持つアイデンティティ」に対応する場所性について7つの類型を示しており、そのうち、マス・メディアによる大衆的合意によるアイデンティティは、表層的なアイデンティティであると指摘しており、本研究が問題意識とする「地域が持つアイデンティティ」の認識の背景の差異に該当すると考える。

### (2) 本研究の着眼点

既往研究の整理を踏まえて、本研究では、地域アイデンティティを、「地域が持つアイデンティティ」と、「地域と関連する自己アイデンティティ」の2つで構成される概念と捉え、「地域が持つアイデンティティ」として景観に着目する。

その上で、「地域が持つアイデンティティ」の認識のあり方として、集団内での承認への依存やマス・メディアに由来する認識は、本質的には「地域が持つアイデンティティ」に対して接していないことから、「地域と関連する自己アイデンティティ」の形成を妨げかねない点に着目する。換言すると、地域や景観がもつ意味への内面的な接し方（以下、「意味理解」と呼ぶ）に着目して、「地域が持つアイデンティティ」の認識と、「地域と関連する自己アイデンティティ」の形成との影響関係に焦点を当てる。

## 3. 仮説

はじめに、「意味理解」についてはレルフの記述<sup>7)</sup>を参考として、対象に関する事柄を単なる情報として理解するのではなく、対象が存在する意義や深層にまで気付き理解することとし、意味理解への態度は、地域に対して向き合い理解しようとする積極性である「理解の主体性」と、景観がどのような経緯を基に存在しているかを理解しようとする態度である「景観への態度」で構成される

ものとする。

次に、「地域らしい」と感じる景観を、大衆的合意のみに依存せず、自身の意志やその景観の意義について本質的な理解に基づいて判断することを「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識」とする。

また、「地域と関連する自己アイデンティティ」については、2. での整理、および本研究では地域との間接的関与による地域の持続に着目する点から、地域愛着と場所アイデンティティを構成概念とする。

最後に、本研究では対象地域を「自己の意識における地域」とする。既往研究では、特定の地域か居住地、あるいは回答者が「地元」「ふるさと」と思う地域を対象とする例がある<sup>12)</sup>。前者の場合は、特定の地域を対象とするため回答者は常にその「特定の地域」について回答することになるが、後者の場合は、誰に尋ねられたかが対象地域の選択に影響する可能性が考えられる。そこで、本研究では具体的な地域ではなく、回答者自身が内面的に結びついていると考える地域を把握したいという発想から、「自己の意識における地域」について議論することとする。

以上について関連する先行研究として、近石ら<sup>13)</sup>は、「理解の主体性」と「自己の意識における地域」について調査し、「地域について知っていたい」という地域に対する積極的な態度は、地域愛着や地域に対する誇り、場所アイデンティティを高めると指摘している。

以上を踏まえて、本研究では、以下の3点を仮説とする。

**仮説1**：意味理解への態度が強いと、「地域と関連する自己アイデンティティ」を高める。

**仮説2**：意味理解への態度が強いと、「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識を強める。

**仮説3**：「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識が強いと、「地域と関連する自己アイデンティティ」を高める。

#### 4. 意味理解への態度による地域アイデンティティの認識と形成

ここでは、3. で論じた仮説1, 2, 3の検証を行う(図-1)。

##### (1) 調査の実施

###### a) 調査概要

調査は、スクリーニング調査と本調査で構成し、それらを順に実施した。スクリーニング調査は、2023年1月に全国の20歳以上の男女を対象にwebアンケートを行い、「自己の意識における地域の空間的認識」と、「自己の意識における地域の条件」、「自己の意識における地域らしいと感じる景観の有無」について質問した。

本調査では、スクリーニング調査にて「自己の意識における地域」を市区町村レベルで現住所と考え、かつ「自己の意識における地域」らしい風景があると思う人を対象に、2023年2月にwebアンケート調査を行った。

###### b) 調査項目

調査項目を表-1に示す。自己の意識における地域を「自分を最もよく表す地域」と表現して質問した。また、「地域と関連する自己アイデンティティ」「地域に対する理解の主体性」は、近石ら<sup>13)</sup>の調査項目を用いることとする。「景観への態度」には「キッチュ」「テクニーク」の概念<sup>7)</sup>を参考に独自の項目を設定した。

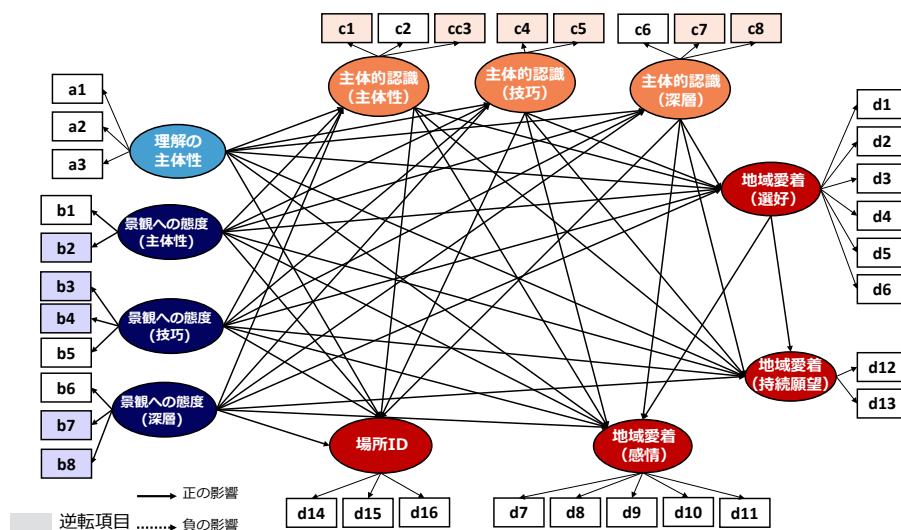


図-1 調査を通じて検証する因果構造モデル

表-1 調査項目

<p>「景観への態度」に関する項目 (<math>\alpha=0.6</math>)</p> <p>風景に対する以下の考え方について、あなたのお考えに当てはまるものをお答えください。</p> <p><b>景観への態度 (主体性) (<math>\alpha=0.093</math>)</b> ある風景を好きだと感じるときには、世間一般からの評価が高いということよりも、いかに自分自身が心地よいと思うかのほうが重要な要素である-b1 特に大切にしていけるべき風景というのは、世間一般人々の中で評価が高い風景である-b2</p> <p><b>景観への態度 (技巧) (<math>\alpha=0.3</math>)</b> 特に大切にしていけるべき風景というのは、観光で有名な風景か、集客が見込めるような風景である-b3 地域の生活を便利にする施設整備のためであれば、いまある風景が損なわれても仕方がない-b4 地域の風景を維持するために、生活をより快適にする技術を取り入れられないとしてもやむを得ない-b5</p> <p><b>景観への態度 (深層) (<math>\alpha=0.44</math>)</b> 特に大切にしていけるべき風景というのは、見た目の美しさだけでなく、その地域に根付いていることが必要である-b6 日本のどの地域においても、求められるのは見た目の美しさである-b7 歴史的な町並み景観にとって重要なのは、見た目の美しさである-b8 (それぞれその地域について、当てはまるものを「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答)</p>	<p>「地域に対する理解の主体性」に関する項目 (<math>\alpha=0.79</math>)</p> <p>「あなたのことを最もよく表す地域 (市区町村)」について、当てはまるものをお答えください。</p> <p>その地域について知ってみたいと思う-a1 その地域の最新の情報を抑えておきたいと思う-a2 その地域の情報に自らアクセスする方だ-a3 (それぞれその地域について、当てはまるものを「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答)</p> <p>「地域と関連する自己アイデンティティ」に関する項目</p> <p>「あなたのことを最もよく表す地域 (市区町村)」について、当てはまるものをお答えください。</p> <p><b>「地域愛着」</b> <b>地域愛着 (選好) (<math>\alpha=0.89</math>)</b> 住みやすいと思う-d1 お気に入りの場所がある-d2 歩くのは気持ちよい-d3 雰囲気や土地を気に入っている-d4 好きだ-d5 リラックスできる-d6</p> <p><b>地域愛着 (感情) (<math>\alpha=0.81</math>)</b> 大切だと思う-d7 愛着を感じている-d8 自分の居場所があると感じている-d9 自分の街だという感じがする-d10 ずっと住み続けたい-d11</p> <p><b>地域愛着 (持続願望) (<math>\alpha=0.9</math>)</b> いつまでも変わってほしくないものがある-d12 なくなってしまうと悲しいものがある-d13</p> <p><b>「場所アイデンティティ」 (<math>\alpha=0.82</math>)</b> 私はその地域の人間だと思う-d14 私らしくいられると思う-d15 私を表していると思う-d16 (それぞれその地域について、当てはまるものを「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答)</p>
<p>「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識に関する項目</p> <p>その地域らしいと感じる風景について、その地域外の人に説明することになったとき、思い浮かぶ風景を1つお考え下さい。</p> <p>その風景を考えた理由について、当てはまるものをお答えください。</p> <p><b>主体的認識 (主体性) (<math>\alpha=0.58</math>)</b> 広く知られているからだ-c1 他者や周りからの評価ではなく、私自身がその風景が好きであったり、思い入れがあるからだ-c2 地域らしい風景というのは、その地域の顔として地域内外の人々に評価されるようなものであるべきという考えを持っているからだ-c3</p> <p><b>主体的認識 (技巧) (<math>\alpha=0.65</math>)</b> 生活が便利になる技術を取り入れているからだ-c4 自分たちに利益になるからだ-c5</p> <p><b>主体的認識 (深層) (<math>\alpha=0.6</math>)</b> その地域に根付いた風景であるからだ-c6 見た目が特徴的な風景であるからだ-c7 地域らしい風景というのは、他地域と比べてどれだけ見た目が美しく特徴的であるかが重要という考えを持っているからだ-c8 (それぞれその地域について、当てはまるものを「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの5件法で回答)</p>	

最後に、「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識に関しては、「景観への態度」と同様に場所のアイデンティティの類型における「表層的アイデンティティ」<sup>7)</sup>を参考に、独自の項目を設定した。いずれの項目も5件法とした。

c) 分析対象

回答者の主な個人属性を表-2に示す。得られたサンプル数550件の内、いずれもデータの破損、欠如が見られなかったため、分析では、550件を用いる。

(2) 仮説1, 2, 3の検証

「地域と関連する自己アイデンティティ」の形成と、「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識に与える、意味理解への影響について、共分散構造分析を用いて検証を行った(図-2)。

但し、本章で示した因果構成モデル(図-1)の場合、「景観への態度」「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識が仮説通りに抽出出来なかったため、探索的に因子を抽出し、新たな因果構成モデルにて共分散構造

表-2 回答者の主な属性

サンプル数: 550
性別: 男性370名/女性180名
年代: 20代13名/30代44名/40代96名/50代173名/60歳以上224名
現住所(地方): 北海道33名/東北地方33名/関東地方225名/中部地方84名/近畿地方95名/中国地方21名/四国地方14名/九州地方45名

分析を行った。以下ではその結果について考察する。

a) 意味理解への態度と「地域と関連する自己アイデンティティ」の因果関係の検証

はじめに、「地域と関連する自己アイデンティティ」と、意味理解への態度として構成した「地域に対する理解の主体性」と「景観への態度」との因果関係について分析する。

「地域に対する理解の主体性」は、地域愛着(選好)、地域愛着(感情)と、地域愛着(持続願望)、場所アイデンティティに正の影響を与える関係になっている。一方で、「景観への態度」は、地域愛着(感情)に負の影響を与えている。

このことから、地域に対する愛着や場所アイデンティ

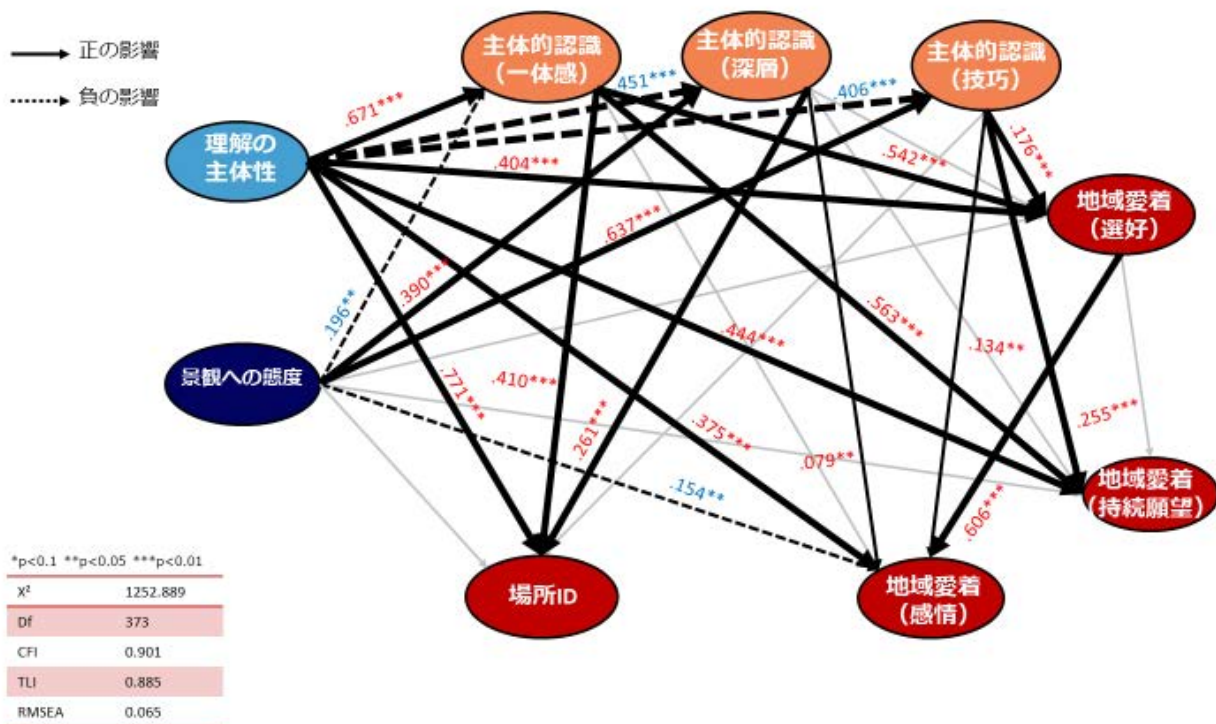


図-2 共分散構造分析の結果

ティの形成において、一般に景観に対して誠実に向き合おうとする姿勢よりも、当該地域について理解したいという積極的な姿勢が重要である可能性がある。

b) 意味理解への態度と「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識の因果関係の検証

次に、「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識と、意味理解への態度との因果関係について分析する。

「地域に対する理解の主体性」は、主体的認識（一体感）に対して正の影響を与える一方で、主体的認識（深層）と、主体的認識（技巧）に対して負の影響を与えている。「景観への態度」は、主体的認識（一体感）に対して負の影響を与え、主体的認識（深層）、主体的認識（技巧）に対しては正の影響を与えている。

このことから、一般に景観に対して誠実に向き合おうとすれば、自らの意志や判断、或いは対象景観について本質的に理解した上で主体的に認識するが、その景観を含む地域について「知ってほしい」と強く求めると表層的な認識に至る可能性がある。

c) 「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識と「地域と関連する自己アイデンティティ」との因果関係の検証

最後に、「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識と「地域と関連する自己アイデンティティ」との因果関係について分析する。

主体的認識（一体感）は、地域愛着（選好）と地域愛着（持続願望）、場所アイデンティティに正の影響を与えている結果となった。主体的認識（深層）は地域愛着（感

情）と場所アイデンティティに正の影響を与えている結果であった。同様に、主体的認識（技巧）は、地域愛着（選好）と地域愛着（感情）、地域愛着（持続願望）に対して正の影響を与えている結果となり、全てに対しての影響関係は見られなかったものの、大概ね本章の因果構造仮説を支持する結果となった。なお、今回地域愛着（選好）からは地域愛着（感情）にのみ影響関係が見られた。

このことから、「地域が持つアイデンティティ」の認識の背景の差異が、「地域と関連する自己アイデンティティ」の質的形成に影響を与えるのではないかという本研究の問題意識を支持する結果となった。

5. 結論

本研究の成果は、以下の2点である。

- ・ 文献調査から、「地域が持つアイデンティティ」の認識の背景の差異について議論されていない上、景観や地域に対する態度の重要性は指摘されているが検証されていないことを確認した。
- ・ 景観や地域に対する態度に着目し、3つの仮説を構築し検証を行った結果、仮説1, 2, 3の構造が概ね確認でき、「地域と関連する自己アイデンティティ」の形成には、意味理解への態度と「地域が持つアイデンティティ」の主体的認識が影響している可能性がみられた。

今後の課題は、適切な因子を抽出するための調査項目

の改善と、より詳細な属性や具体的地域を加味した調査の実施である。

#### 参考文献

- 1) 鈴木春菜, 藤井聡: 地域愛着が地域への協力行動に及ぼす影響に関する研究, 土木計画学研究・論文集, 25 巻, 2008
- 2) 芝池綾, 谷口守, 松中亮治: 意識調査に基づくソーシャル・キャピタル形成の構造分析, 都市計画論文集, 43.3 巻, 2007
- 3) 藤居良夫, 伊藤勝久, 大森賢一: 農山村地域における居住者の景観およびふるさと意識の統計的分析—島根県八雲村における調査事例から— 農業土木学会論文集, 第 164 号, 1993
- 4) 国土交通省: 国土のグランドデザイン 2050~滞留促進型国土の形成~, 2014
- 5) 国土交通省: 美しい国づくり政策大綱, 2003
- 6) 城月雅大, 園田美保, 大槻知史, 呉宣児: 「まちづくり心理学」の創出に向けた基礎理論の構築: 計画論と環境心理学の橋渡しによる地域再生のために, 名古屋外国語大学現代国際学部紀要, 第 9 号, 2013
- 7) エドワード・レルフ (著), 高野武彦, 石川美也子, 阿部隆 (訳): 場所の現象学 没場所性を超えて, 筑摩書房, 1999
- 8) 重岡徹, 山本徳司, 栗田英治, 木下貴裕: 農業農村整備事業の導入に伴う地域アイデンティティの再醸成機能に関する考察, 農業農村工学会誌, 78 巻 9 号, 2010
- 9) 小谷仁務, 横松宗太: アーティファクトとしての地域資産と住民のアイデンティティ形成: カテゴリー選択モデルアプローチ, 土木学会論文集 D1, 71 巻 1 号, 2015
- 10) 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一: 地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—, 土木学会論文集 D, Vol.65 No.2, 101-110, 2009.
- 11) 渡部陽介: 地域アイデンティティとして語られる景観構成要素の空間的階層構造(第 16 回大会発表論文), 人間・環境学会誌, 12 巻 2 号, 2009
- 12) 関口達也, 林直樹, 杉野弘明, 寺田悠希: 人々の「地元」に対する概念的・空間的認識の多様性-地域のまちづくりへの活用に向けた定量的解析-, 農村計画学誌, vol.35, 2017
- 13) 近石さゆり, 高橋由弥, 齋藤和希, 泊尚志: 自己の意識における地域の把握と人と地域との心理的な結びつきに影響を与える要因に関する考察, 土木計画学研究・講演集, Vol.65, 2022